

S・M・C

Shizuoka Medical Communication

市民公開講演会

認知症に寄り添う ～ 認知症になっても不安でない社会を ～

平成30年9月2日、認知症の人と家族の会静岡県支部相談役の八木敬さんを講師に迎え、市民公開講演会を開催しました。八木さんは、富士市議会議員として長く活動される傍ら、青少年を中心としたボランティア育成活動にも精力的に取り組まれてきました。その間、レビー小体型認知症を発症されたお父様の介護にもあたられ、その経験から認知症についての理解を広げ深める活動を続けていらっしゃいます。

お話は、認知症を取り巻く社会の変遷から始まりました。“認知症”という言葉は、実はまだ歴史が浅く、2004年に厚生労働省がそれまで一般的だった“痴呆”という侮蔑的な表現に替わる名称として発表した新しい用語だそうです。これにより、認知症は疾患の一つとして、早期発見・早期診断、同時に治療の対象と考えられるようになりました。そして、認知症に対する社会の理解を促すための政策もとられるようになってきました。

人間だれもが穏やかな生活を望んでおり、認知症になってもそれは同じこと。認知症の人も自分自身の生活を続けていくべき権利のある「一人の人間」



であることを理解することが大切であり、人間としての尊厳が尊重されるケアが求められます。否定や無視など本人の誇りを傷つける「北風のケア」ではなく、褒める・認める・感謝する・共感する・笑顔で寄り添う「太陽のケア」が大切であると真心を込めて話されました。認知症の家族をケアするとなると、感情的になってしまい、なかなか対応は難しいとは思いますが、対応のコツをきちんと学び、正しい知識を身に付けることの必要性を再認識しました。

最後に、司会の上藤さんの穏やかなやさしい声で「手紙～親愛なる子供たちへ～」の朗読があり、自分の両親を想い温かい気持ちになりました。

講演後には、積極的な質問や現在介護中というご家族の発言もあり、認知症の問題への一般の方の関心の高さをうかがうことができました。9月は「世界アルツハイマー月間」であり、その初めに相応しい講演会となったと思います。「認知症になっても不安のない社会」は、「誰にとってもやさしい社会」であり、認知症の人にだけでなく、誰もが誰に対しても心づかいのある行動のできるやさしい社会になることを願います。

(佐久間)



第69回医学教育セミナーとワークショップ in 信州大

平成30年8月18日、MEDC主催のワークショップ「模擬患者大交流勉強会」に参加しました。開会のあいさつに続くアイスブレイキングでは、団体別自己紹介が行われましたが、大学のSP研究会がほとんどでした。

藤崎和彦先生の「参加型教育の現状と課題について」の講義からは、「益々模擬患者への需要は高まっている。また、従来の医学・歯学・薬学のみでなく、看護・リハビリにおいても、コアカリキュラムに基づく教育が議論されるようになり、コミュニケーション教育も一層の広がりを求められるようになった」ことを知りました。

信州大学医学部SP研究会の報告の後、グループ討議を行いました。全体的には、「学生を育てるのに、SPとしてどうフィードバックしたらいいのか」「SP間で考え方もいろいろなので、シナリオに書いていないことの標準化が難しい」などの実践的なところの問題と、SPの高齢化、SPのドロップアウトなどが話し合われました。交通費なども十分に支払

われていない現状があり、スケジュールが増え、負担が大きくなって辞めていく人も多いようです。自分たちの学習を深めるというよりは、大学のSPが抱える問題がクローズアップされていましたが、今後の課題としては重要で、取り組んでいかなければいけない問題であると思いました。

藤崎和彦先生のまとめです。

- SPの出番は多すぎても、少なすぎてもだめ。
- SPのフィードバックは学生にとってインパクトがあるが、育てる責任は教員にある。SPのフィードバックもブラッシュアップはしてほしい。
- 費用に関しては、SPと大学の間では温度差がある。
- SPの教育は更新制を作っていく。

松本市の文化のなかで、町を散策する機会もあり、楽しい研修となりました。

(関)

静岡市保健所主催 医療従事者向け研修会

【清水薬剤師会 平成30年10月25日開催】

静岡市保健所は平成20年から「医療コミュニケーション研修会」を開催し、私たちSMCもこの10年間で多くの病院や施設に勤務される方々とコミュニケーションについて考えてきました。そのような中、今回初めて“薬剤師会”で研修会を開催できましたことを、とても嬉しく思います。

保険薬局に勤務される薬剤師が対象でしたので、窓口での対応を設定しました。娘が母親の薬を受け取りに来ることを事前に示しただけで、ロールプレイを2回、薬剤師を変えて行いました。薬を渡した後に、「私自身のことですが、最近頭痛がひどいので、頭痛薬を欲しい」と話しかけられます。求められるままに薬を渡すのではなく、状況を把握しながら対応する薬剤師の姿勢はそれぞれ異なりましたが、研修に参加された方々は、コミュニケーションの取り方の違いで、患者から得られる情報の量や内容が異なることに気づかれたことでしょう。

かかりつけ薬剤師として、また健康サポート薬局の薬剤師として、市民からの健康相談にどう寄り添うかを考える時、コミュニケーションの重要性を再認識していただければ幸いです。(鈴木)



◆ 医療コミュニケーション研修会を終えて ◆

今回、会員が見つめる緊張の中、薬剤師として模擬患者とのロールプレイングを体験させていただきました。普段の業務で薬剤師は、患者さんに一方的に服薬指導することばかりに集中してしまいがちですが、まず患者さんの気持ちに寄り添い、傾聴、共感することの重要性を学ぶ良い機会となりました。今後もSMCの皆さんの活動が、静岡の医療に重要な役割を果たされるよう応援いたします。ありがとうございました。

清水薬剤師会 滝口智子

※SPとは・・・

模擬患者：Simulated Patientの略です。SP（エスピー）は、本物の患者と同様の演技ができるように訓練された人のことで、医療関係者の演習やトレーニングで研修者の相手をします。また、標準模擬患者：Standardized Patientの意味もあり、試験や評価（OSCEなど）に用いられます。

【静岡県立総合病院 平成30年10月29日開催】

私は20年の長きに渡りコミュニケーションの勉強をさせて頂きましたが、ファシリテーターという役目は、なかなか満足のいくようには果たせずに経過してしまっただけのように思います。しかし、その間に研修を受けた医学生、薬学生、病院施設の職員の方々が大きく成長され、感動する場面が沢山ありました。特に、最初の頃の学生さんの中には、医療面接の試験を無言で終了する場面もあり、助けられない自分がとても辛く、今でもあの時の事が頭に残っています。最近では、大学側も早くから研修を重ね試験に臨むので、相槌やオウム返しがうまく使え、達成感を感じる事が多くなりとても嬉しく、又頼もしく、学生さんが輝いて見えます。

今回、静岡県立総合病院での研修はクレーム対応のシナリオでした。二人の職員の方それぞれが持ち味を出し、患者役を務めたSMCのスタッフも振り返りで「自分（患者）の思いを聞いてもらえた」、「本当に言いたい事を口に出すことができた」と感想を述べ、良いセッションになったと思います。

私のファシリテーターとしての役目は性格通りさっぱりと終わってしまいましたが、事実のオウム返しについて、流れの中の具体例を出し詳しく解析するべきであったと反省しています。しかし、会場の職員の皆さんと活発な意見交換ができたことで私の目標は達成されました。協力していただいた皆さんに感謝しています。(山田)

【静岡市医師会 平成30年11月27日開催】

静岡市医師会で開催した医療面談研修会に、ファシリテーターとして参加しました。

「進行癌を患者に告知する」シナリオで、医師と看護師が続けて患者と話を設定で行いました。そのクリニックでは患者さんの女性とは家族ぐるみの付き合いでしたが、自身の病気は初めてであり進行癌の告知は彼女にとっては衝撃的でした。

はじめのセッションでの担当の先生はゆったりと、非常にゆったりと場面の緊張感をときほぐすようなアプローチで入られて、ゆっくりと告知をされ、看護師さんは患者さんに寄り添う姿勢で、本当の診療場面のような感じでした。次のセッションでは、告知自体は早い段階でされましたが、そのあとのメンタルケアがしっかりとできた面談内容でした。看護師さん



◆医療コミュニケーション研修会に参加して◆

今回は貴重な体験の機会を与えて頂き、ありがとうございました。

患者さんが心配したり、不安に感じたりしていることはよくわかりましたので、その思いには寄り添いたいと思いました。また、ベッドサイドにポピドンヨードがあったことについては、それが原因で間違いが起こってしまったので、謝罪するべきだと思いました。今後このような事がないように、スタッフ間の情報共有も必要です。

研修ではチェックポイントを確認して臨みましたが、普段から意識してテクニックを使うには何回か経験を重ねる必要があると思います。模擬患者からの講評では、率直な感想が聞けて自分を振り返る機会になりました。また、はじめに研修した私は2人目の対応を見る事ができたのでとても勉強になりました。

患者さんに対していつでも誠実に対応することを、普段から心がけたいと思います。大変緊張していたので演技する余裕はなく、いつもの自分の対応を見直す機会になりました。

静岡県立総合病院 看護師 鈴木えり子

もリアルで共感に溢れたメンタルケアでした。

研修に参加された方々からは、実際の臨床現場のような研修だったという感想や、トレーニングに実際に自分自身が参加してみたいという声などが聞かれました。(袴田)



※OSCEとは・・・

客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examinationの略です。OSCE（オスキー）は、日本の医学部、歯学部、薬学部6年制課程の学生が臨床実習に進むために合格しなくてはならない試験の一つです。

※Post-CC OSCEとは・・・

臨床実習後OSCE：Post-Clinical Clerkship OSCEの略で、臨床実習後に総合的臨床能力を評価する実技試験です。

平成30年度 SMCの活動

月 日	活 動 内 容
平成30年 4月 5日	新規採用者研修会へのSP派遣 (静岡県立総合病院)
4月 7日	浜松医科大学医学部 OSCE (医学科4年) へのSP派遣
4月15日	平成30年度SMC総会
5月25日	浜松医科大学「医学概論Ⅱ」(医学科2年) へのSP派遣
7月 7日	浜松医科大学医学部 Post-CC OSCE (医学科6年) へのSP派遣
8月18日	MEDC 第69回医学教育セミナーとワークショップに参加 (松本)
9月 2日	SMC主催 市民公開講演会 (静岡市中央福祉センター)
9月 8日	静岡県立大学「CRC特論」への講師およびSP派遣 (静岡県立総合病院)
10月20日	VHJ 機構臨床研修指導医養成講座へのSP派遣 (名古屋)
10月21日	SMC研修会
10月25日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣 (清水薬剤師会)
10月29日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣 (静岡県立総合病院)
11月27日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣 (静岡市医師会)
12月 8日	静岡県立大学薬学部 OSCE (薬学部4年) へのSP派遣
平成31年 1月25日	MEDC 第71回医学教育セミナーとワークショップに参加 (岐阜)
2月 9日	浜松医科大学医学部 OSCE (医学科4年) へのSP派遣
毎月 1回	定例会 (静岡市中央福祉センター)

SMC研修会

SMCとの出会いは、移植コーディネーターの研修会で見たDVDでした。医療者と患者様ご家族との対話のシーンを撮影したもので、そこに登場する方々が見たことのある面々で……。それがSMCのメンバーであることを知り入会に至りました。

平成30年10月21日に開催されたSMC研修会では、藤崎和彦先生に「SP参加型教育の現状と課題」と題してご講義いただきました。従来の教育は心構え論で対話ではないこと、独りよがり善意の押し付

けになりがちであること、善意を相手の立場になってうまく届ける訓練が必要であることを熱くお話いただき、医学教育が変わりつつあることを知りました。

医療者のコミュニケーション能力の向上のために少しでもお役にたてるよう、SMCメンバーの一員として継続して関わっていきたくと思っています。

(森田美子)



【連絡先】 静岡医療コミュニケーション研究会 代表 鈴木 崇代

〒420-0961 静岡市葵区北 3-29-27 TEL 054-247-7277

SMC ホームページ URL <http://www.smc-jp.com/>